

「志士の肖像－公文菊僊と龍馬を描いた絵師たち－」展 資料

公文菊僊（1873～1945）

現在の高知市に生まれた。本名は時衛。姉と兄がおり、兄の名は龍馬という。尋常中学校（現・県立追手前高校）で楠永直枝に師事し、卒業後上京して久保田米僊（1852～1906、京都生）について四条派（日本画の流派のひとつ）を学んだ。その後は、東京に住んだようで、大正2年発刊の『土陽美術 第1巻』には、東京の土陽美術会本部会員として名がある。昭和20年5月の空襲で自宅全焼し、書画や絵の資料などを失い、同年12月に72歳で没した。

菊僊は、維新の人物肖像画を専門に描く、職業画家のような生涯を送った。高知出身の芸術家の集まりである土陽美術会に籍を置いていたが、肖像以外にもどのような作品を描いていたか、絵師としての菊僊の素顔はあまり明らかではない。一方で、菊僊がこれほど多くの龍馬の肖像を描いたのは、龍馬が日本海海戦を前に昭憲皇太后（明治天皇の後）の夢枕に立ったという逸話や、維新以降の志士顕彰の動きとも無関係ではなかった。

（「志士の肖像」小冊子より抜粋・編集）